

12年が経過した

「東日本大震災の今」

中学生被災地派遣事業

共に 東北の思いを目・耳・心で感じ、伝えることで未来につなごう

市内5中学校の代表10人が、中学生被災地派遣研修に参加しました。
7月31日(月)から8月3日(木)まで、岩手県、宮城県、福島県を訪問しました。

1日目

大船渡市吉浜地区視察

本市5中学校の名前が刻まれた石碑を見学し、長年にわたる吉浜地区と本市の深い絆を感じました。

宝来館女将の講話

津波に流された体験と、地域の人たちと裏山に避難道を整備した経験から、災害への備えを続ける決意を聞きました。



▲いのちをつなぐ未来館（2日目）

2日目

いのちをつなぐ未来館訪問

震災当時、中高生だった語り部に当時の避難体験を聞き、避難のあり方を考える契機となりました。

釜石東中学校生徒間交流

先進的な防災学習を学び、中学生ができる防災・減災について現地の中学生とともに考えました。

陸前高田市元教育長の講話

大切な人がある日突然失うという災害の現実にふれ、かけがえのない一つ一つの命の重さを学びました。

大船渡プラザホテル職員の講話

震災をきっかけとした生き方や考え方の変化と、家族や友達の大切さについて話を聞きました。



▲気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館（3日目）